

当社は、3月27日、日本原子力学会バックエンド部会から「低レベル放射性廃棄物埋設施設の安全操業と設計開発」に係る業績賞を受賞しました。この賞は、原子力のバックエンド分野における顕著な貢献に対して贈られるもので、今回の受賞は、「日本で最初の埋設施設として、1992年から30年以上にわたり、安全・安定操業を続けたこと」、「ピット処分の安全性能等について、貴重なデータを学会に提供し続け、放射性廃棄物処分技術の更なる信頼性向上に寄与してきたこと」が評価されたものです。

この賞を受賞できたのも、当社施設を受け入れ、長年にわたり、ご理解とご協力をいただいている青森県ならびに六ヶ所村の皆さまのおかげであり、心より感謝申し上げます。



授賞式の様子



賞状と記念トロフィー（佐々木埋設センター長）



### 【低レベル放射性廃棄物埋設センターのこれまで】

50年前は緑が一面に広がっていましたが、これを切り拓いて埋設ピットの建設を進めさせていただき、現在は3つの埋設施設で事業を進めています。1992年に1号埋設施設、2000年に2号埋設施設の操業を開始し、毎年、全国の原子力発電所の運転に伴い発生した廃棄体を安全かつ安定的に受け入れており、これまでの輸送回数は約260回、受入本数は約36万本となりました。3号埋設施設についても現在、ピットの構築工事を実施しているところであり、2024年度中には操業を開始する予定です。



施設の建設前の航空写真（1975年撮影）



現在の施設全景（2022年撮影）

1975年

1985年

1992年

2000年

現在



立地基本協定締結時の様子(1985年撮影)



1号埋設施設の操業開始当初の様子(1993年撮影)



2号埋設施設の操業開始直前の様子(2000年撮影)

### 【埋設事業部長 近江 正】



32年前、私は日本原子力発電(株)の社員として、日本原燃の埋設施設で最初となる廃棄体を、発電所側から送り出しました。当時、新たに原子燃料サイクルの輪に加わる緊張に震えたことを今でも鮮明に覚えています。

廃棄体に関する仕事に長く携わり、今こうして埋設事業部長として事業運営できていることを感慨深く思います。30年以上にわたり、ご理解とご協力をいただいている地域と協力企業の皆さま、本当にありがとうございます。

### 【低レベル放射性廃棄物埋設センターの現状】

	操業開始	容量	受入本数
1号埋設施設	1992年	204,800本	156,963本*
2号埋設施設	2000年	207,360本	200,872本*
3号埋設施設	2024年度(予定)	211,200本	—

\*2024年3月28日現在

今後も、1号・2号埋設施設への廃棄体の着実な受け入れと、3号埋設施設の構築工事を安全最優先に進め、引き続き、低レベル放射性廃棄物埋設センターの安全・安定操業に努めてまいります。